

このひとをじっくり探してみますか？

第20回

尾高ゆう おだか ゆう

(安政5年頃～大正12年1月30日)



(個人蔵)

尾高ゆうは、安政五(一八五八)年頃、尾高惇忠の長女として榛沢郡下手計村(現深谷市下手計)に生まれました。父の惇忠は、地元でも有名な学者・教育者で、いこの渋沢栄一も惇忠に学びました。

明治維新から間もなく、明治政府は経済発展と軍事力の強化を目指した『富国強兵』を合言葉に、外国の技術の導入などで近代工業を盛んにし、外貨獲得の手段としていきました。そのひとつとして、良質な生糸を生産するため官製製糸場の設立を決めます。惇忠はこの当時、民部省で養蚕を勧める役職

に就いていましたが、渋沢栄一の推挙を受け、富岡製糸場の設立に奔走し、初代の場長となります。

惇忠は富岡製糸場の開業に向け、伝習工女を全国から募ります。しかし、当時は外国人に対する忌避感情や、工場でのフランス人指導者が若い娘の生き血を飲むといううわさがあり、希望者は現れませんでした。そこで、当時まだ十四歳のゆうは、悪いうわさを払拭しようとする父の意をくみ取り、また、新しい技術を身につけることに希望と誇りを抱いて富岡に赴きました。

若いゆうの勇気ある行動は近隣に伝わり、感銘を受けた女性たちは連れ立って工女に志願し始めます。こうして製糸場は、必要な工女を集め、操業にこぎつけることができました。集まった工女は、豪農・豪商・士族らの娘が多かったようです。彼女たちは寄宿舎に入り、日曜日は休日、夜業は禁止など労働

条件に配慮され、習字・裁縫・読書の教室が開かれるなど製糸場での暮らしは、規律規範の正しい豊かなものでした。ゆうをはじめとする工女が作った生糸は、明治六(一八七三)年にオーストリアのウィーン万国博覧会で「等進歩賞牌」を受賞しました。

富岡製糸場で学んだ工女たちはその後、全国各地に製糸技術を伝え、良質な生糸の生産を支えます。日本の生糸は世界から高い評価を



▲尾高ゆうと父惇忠が過ごした『尾高惇忠生家』(下手計236)。年末年始を除く毎日午前9時～午後5時に一般公開しています

用語の手引き

『富岡製糸場と伝習工女』

日本では伝統的に手動の座繰製糸が行われていたが、富岡製糸場は洋式器械製糸の技術を導入し、良質な生糸の大量生産を可能にした。伝習工女は新たな製糸技術を日本中に普及するため、募集された。

得て、主要な輸出品として大きな役割を果たしました。ゆうの決断が女性たちを後押しし、日本の近代産業の発展に大きな貢献をしました。

渋沢栄一ゆかりの地をめぐる

2016ふかやスタンプラリー

園 渋沢栄一記念館(☎587-1100)

とき 11月13日(日)～20日(日)午前10時～午後3時

ところ 渋沢栄一関連施設

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。

市長の深い話

谷が

深谷市長 小島 進



振り込め詐欺にご注意を!!

現在、オレオレ詐欺、架空請求詐欺などの振り込め詐欺が多発し、大きな社会問題となっています。

市内でも、振り込め詐欺と思われる電話が後を絶たず、被害が増加しています。今年の被害件数は10月23日現在で17件、被害総額は7515万円にも上ります。

これまでの振り込め詐欺は親族をかたって現金を振り込ませる手口がほとんどでしたが、最近は、警察官や市役所職員、銀行員、弁護士などをかたってキャッシュカードや現金をだまし取る手渡し型の手口が増えてきました。

ちなみに、振り込め詐欺の手口はいつも同じではなく、新たな政策・制度やその時々での社会の出来事に乗じた詐欺も次々に発生しています。

また、犯人はお金を要求する1カ月も前から「電話番号が変わった」という連絡を入れたり、何度も電話して信用させようとしたりと、あらゆる手段を使って私たちをだまそうとします。「うちの親は大丈夫だ」「自分は大丈夫だ」とは考えず、誰もが詐欺の被害に遭う可能性があると考えてください。

埼玉県警のホームページでは、皆さんを被害から守るためのポイントとして、①電話を受けても慌てない、②お金は絶対に振り込まない、③本人に直接会って、または、元の番号に電話をかけて事実を確認する、④家族や警察に相談する、の4点を挙げています。こうした点に特に注意して、家族で合言葉を決めたり、犯人からの電話を知らなくすむように、在宅中でも留守番電話にしたり、防犯機能付き電話を使用するなどして、被害に遭わないよう対策をとりましょう。

ありがとうの手紙



優秀賞

小学校高学年の部
ほくのスパイクへ

上柴東小学校4年(現5年) 松本快斗さん

サッカーの時に、はくスパイクは、はくだけで、ほくに力をくれるんだ。くつひもをしぼったら「今日は勝つ」という気持ちになるし、何でもできるような気がする。

サッカーはチームプレイだから、チームのために全力でがんばらないといけない。だから、ほくはスパイクと一心同体になって、点を取りに行くんだ。

ゴールを決めた時、試合に勝ったときは最高の気分！「いつもありがとう、ほくと一緒にがんばってくれて。これからもよろしくね。」